

431/145

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-80702

(43)公開日 平成11年(1999) 3月26日

(51)IntCl ⁹	識別記号	F I
C 0 9 K 3/00		C 0 9 K 3/00 R
A 6 2 D 1/00		A 6 2 D 1/00
C 0 9 K 3/30		C 0 9 K 3/30 N
	21/08	21/08
C 1 1 C 5/00		C 1 1 C 5/00 M
審査請求 未請求 請求項の数2 F D (全 3 頁)		

(21)出願番号 特願平9-249952

(22)出願日 平成9年(1997) 8月29日

(71)出願人 390005544

サンハヤト株式会社

東京都豊島区南大塚3丁目40番1号

(72)発明者 前田 清近

東京都練馬区春日町一丁目31番15号

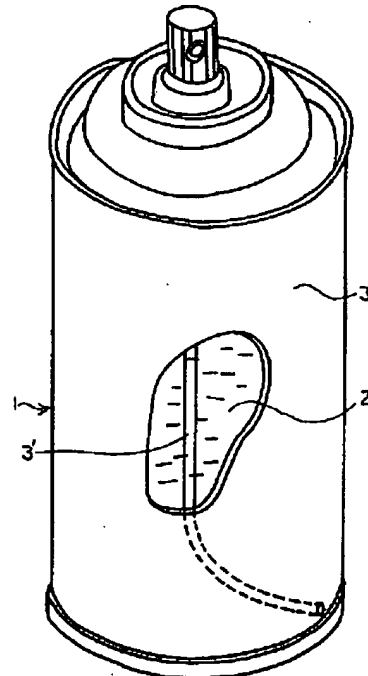
(74)代理人 弁理士 杉山 一夫

(54)【発明の名称】 垂れた蠟の瞬間剥離剤及びこれを用いた蠟燭の消火方法

(57)【要約】

【課題】 垂れた蠟を簡単に剥離することができるようにする。

【解決手段】 HFC134a液化ガス2をエアゾール缶3に充填する。該HFC134a液化ガス2を液状態のまま垂れた蠟に噴霧する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 HFC134a液化ガスをエアゾール缶に充填し、これを液状態のまま噴霧するようにしてなる垂れた蠟の瞬間剥離剤。

【請求項2】 HFC134a液化ガスをエアゾール缶に充填した蠟の剥離剤を用い、HFC134a液化ガスを液状態のまま蠟燭の炎に噴霧して消火することを特徴とする蠟燭の消火方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は垂れた蠟の瞬間剥離剤及びこれを用いた蠟燭の消火方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】寺院は勿論、最近ではキャンドルサービスが流行していることから、結婚式場でも蠟燭を使うことが多くなっている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、蠟燭を使うと垂れた蠟を剥離する手間が大変である。即ち、垂れた蠟はへら等を使って剥離するが、これは實際上容易ではなく、また力を入れて無理に剥がそうとすれば、燭台や床面等を傷つける虞がある。そしてこの作業は屈んだ状態で行なわなければならないから疲労も甚だしい。また、燭台等の彫刻に入り込んだものは剥離することが特に困難である。

【0004】また、結婚式場においてキャンドルサービスを行なう場合に、蠟燭の火を消すためには相当の労力と時間を費やさなければならない。即ち、蠟燭の火を消すためには通常息を吹きかける等の手段で行なっているが、キャンドルサービスで使う蠟燭は太さの大きいものであることから炎も大きく、したがってこれを消すには相当に強く息を吹きかけなければならない。而も何十本もある蠟燭の一本一本に行なわなければならない。

【0005】また、蠟燭はその炎を消した直後は非常に熱いから直ぐにつかむと火傷することがある。そしてまた、蠟燭の頭部には溶けた蠟が固まらずに溜まっており、炎を消した直後に燭台から外そうとすると、この溶けた蠟が床に垂れ落ち、絨毯を汚すことになる。

【0006】本発明は上記の点に鑑みなされたものであって、垂れた蠟を簡単に剥離することができるようにした蠟の瞬間剥離剤と、この瞬間剥離剤を用いて蠟燭の炎を簡単に消すことができると共に、消火と同時に急速に冷却して固まらせることができるようにした蠟燭の消火方法を提供せんとするものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】而して、本発明の要旨とするところは、HFC134a液化ガスをエアゾール缶に充填し、これを液状態のまま噴霧するようにしてなる垂れた蠟の瞬間剥離剤にある。

【0008】また、本発明は、HFC134a液化ガスを液状態のまま蠟燭の炎に噴霧して消火することの特徴とする蠟燭の消火方法も要旨とするものである。

【0009】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施形態について図面を参照しつつ説明する。図1は本発明に係る蠟の瞬間剥離剤のエアゾール缶を一部切欠して示した斜視図、図2は剥離作用の説明図、図3は本発明に係る蠟の瞬間剥離剤を用いた蠟燭の消火方法の説明図である。

10 【0010】まず、蠟の瞬間剥離剤について説明する。図1中、1はHFC134a液化ガス2をエアゾール缶3に充填してなる蠟の瞬間剥離剤である。該HFC134a液化ガスは不燃性であり且つ急速に冷却する性質を有するガスである。また、該HFC134a液化ガスのエアゾール缶への充填は、従来のエアゾールと同様にして行なえばよい。尚、図中3'は液状ガスの導出管である。

【0011】そして、蠟を剥離するときには、図2に示す如くHFC134a液化ガス2を液状態のまま垂れた蠟4に直接噴霧すればよい。このようにするとHFC134a液化ガス2の急速な冷却作用によって蠟4は氷結して体積が小さくなり、該蠟4の裏側には隙間Sができる。そして該隙間Sに侵入した液化ガスは気化するとき約200倍に膨張するから、該蠟4の塊を押し上げて浮き上がらせる。このようにして簡単に蠟を剥がすことができる。また蠟が垂れた直後に処理すればより効果的である。また、斯かる作用、効果は床のような平坦な面は勿論、燭台等の彫刻の部分においても充分期待することができる。

30 【0012】次に、前記蠟の瞬間剥離剤を用いた蠟燭の消火方法について図3を参照しつつ説明する。本方法は、前記蠟の瞬間剥離剤1を用い、HFC134a液化ガス2を液状態のまま蠟燭5の炎6に噴霧するものである。

【0013】而して、HFC134a液化ガスは前記の如く不燃性であり且つ急速に冷却する性質を有するから、これが噴霧されると炎は瞬時に消える。したがって、炎を簡単な作業でもって瞬時に消すことができる。そしてまた、蠟燭の頭部は瞬時に冷却される。またこの冷却によって溶けて溜まっていた蠟が瞬時に固まる。したがって、消火して直ぐに触っても火傷することがない。そしてまた、これにより燭台から蠟燭を外す時間を短縮することができる。また、前記の如く溶けた蠟が瞬時に固まるから、蠟燭を燭台から外すときにこれが垂れて床の絨毯を汚すこともない。

【0014】

【発明の効果】本発明に係る蠟の瞬間剥離剤を用いれば、HFC134a液化ガスを液状態のまま単に噴霧するだけの作業で、きわめて簡単に垂れた蠟を剥離することができる。したがって、垂れた蠟の剥離に要する手間

3

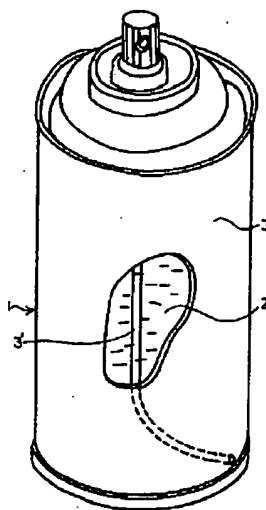
と時間を大幅に軽減することができる。

【0015】また、本発明に係る蠟燭の消火方法によれば、瞬時に炎を消すことができ、且つまた火傷等の事故をなくすることができる。したがって、蠟燭を燭台から外す時間を短縮することができる。加えて蠟燭の蠟が垂れ落ちることによる絨毯の清掃や取り換えといった手間や無駄も解消することができる。

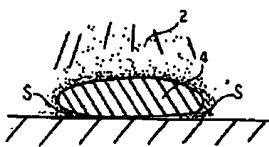
【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る蠟の瞬間剥離剤のエアゾール缶を一部切欠して示した斜視図である。

【図1】



【図2】



4

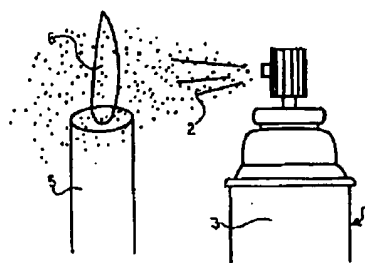
【図2】蠟の瞬間剥離剤の剥離作用の説明図である。

【図3】本発明に係る蠟の瞬間剥離剤を用いた蠟燭の消火方法の説明図である。

【符号の説明】

- 1 蠟の瞬間剥離剤
- 2 HFC134a液化ガス
- 3 エアゾール缶
- 3' 液状ガスの導出管
- 4 蠟
- 10 5 蠟燭

【図3】



【手続補正書】

【提出日】平成9年11月4日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】追加

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 HFC134a液化ガスをエアゾール缶に充填し、これを液状態のまま噴霧するようにしてなる

垂れた蠟の瞬間剥離剤。

【請求項2】 HFC134a液化ガスをエアゾール缶に充填した蠟の剥離剤を用い、HFC134a液化ガスを液状態のまま蠟燭の炎に噴霧して消火することを特徴とする蠟燭の消火方法。

【請求項3】 HFC134a液化ガスをエアゾール缶に充填したものをい、HFC134a液化ガスを液状態のまま蠟燭の頭部に噴霧して、溶けた蠟を瞬時に冷却固化することを特徴とする方法。

DERWENT-ACC-NO: 1999-267431

DERWENT-WEEK: 199927

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Flame extinguishing method for candle - involves spraying liquefied gas containing hydrofluoro carbon, over flame of candle, for extinguishing it